



日米

THE JAPANESE AMERICAN... PUBLISHED DAILY AT 620 ELLIS STREET SAN FRANCISCO CALIFORNIA

輝かしき昭和の 第三年を迎へて

日本の内外益々多事也 我等は一層努力せん哉

昭和三年の歳暮を迎へて、我等海峽の東洋の諸君、前途を展望するに、我々の歩むべき道は、今年に於ては、明かしく、中興の偉業を起さねばならぬ。...

休會明け劈頭 弾劾案提出す

實業同志會が賛成しな ければ結局物にならぬ 民政黨の意嚮

北日本大暴風雪

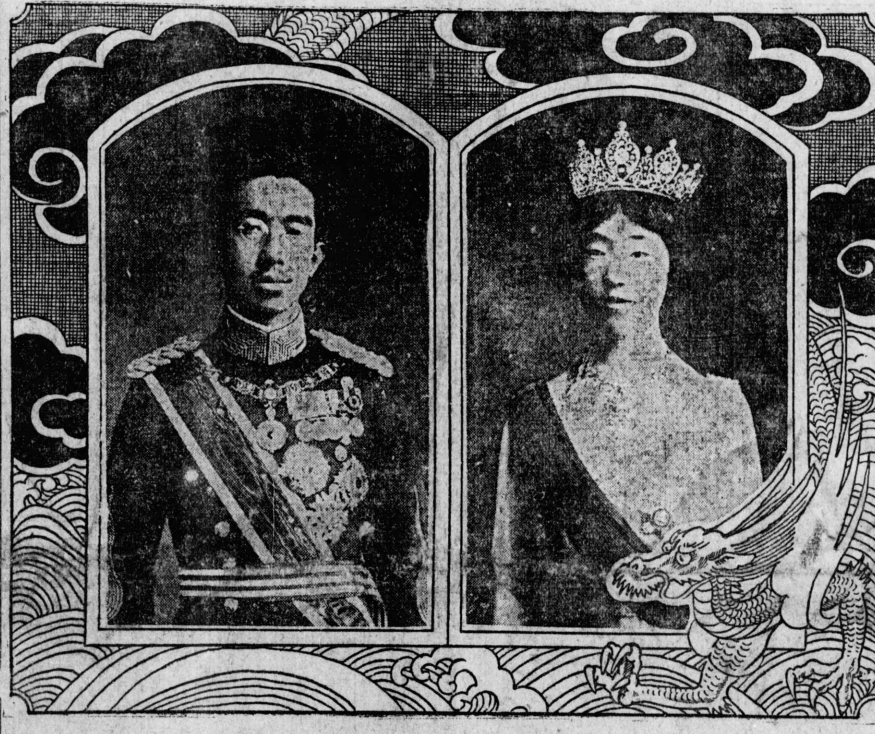
漁船海岸に打上げられ 又は坐礁するの多數

一月中旬ころ 日獨通商條約批准

其の通關稅率の 交渉を爲す筈である

糖業者協調困難

大日本製糖會社が朝鮮から 砂糖の逆輸入をやつた爲め



物好きの東京市民 地下鐵道に興す

上野淺草間地下鐵道 落成し乗客が十萬人

東京市會行惱む

藤山雷太 正方松太郎 兩氏を推すものに分れ 混沌たる状態

露支國交斷絶 日本が調停する乎

駐日露國代理大使出淵外務 次官を訪問して調停依頼 英國に反對

多摩御陵御參拜

皇太后陛下 東京地下鐵道 落成式を舉行

政府の債權肩替

興業第一十五の各銀行に 本年度の外國 貿易不振理由

松江市今曉大火

二百萬を燒き拂ひ 損害は九百萬圓に上る

北伐に關し 日本政府の諒解

馮玉祥及唐生智兩氏の 新年に際して 軍縮の理想を説く

景氣循環 豫知出来る 加太教授新 學說を發表

景氣循環の豫知は、加太教授の新學說によつて、豫知出来る。...

食料不足 英國各地方

英國各地方に食料不足の現象が起つてゐる。...

藝術界の辰年連中 目出度、年男

文士、畫家、男女俳優の 本名年齢等の戸籍調べ

南京の 巨頭辭職

伍朝樞及び 孫科の兩氏

上野驛の 列車遅着

大雪の爲

外國貿易 輸入超過

十二月の外國貿易は、輸入超過の傾向にある。...

豫知出来る 景氣循環

加太教授の新學說によつて、景氣循環の豫知が可能である。...

食料不足 英國各地方

英國各地方に食料不足の現象が起つてゐる。...

文化住宅

文化住宅の建設が、各地で進められてゐる。...

以上六個月 1928

今年の米國經濟界は 景氣が不景氣か 好景氣か不景氣か

どの方から見ても

一九二八年の米國經濟界は景氣が不景氣か好景氣か、どの方から見ても、これは疑問なき所である。米國の經濟界は、今年も好景氣か不景氣か、どの方から見ても、これは疑問なき所である。米國の經濟界は、今年も好景氣か不景氣か、どの方から見ても、これは疑問なき所である。

イヤでも必要な 日本産ゆり根 澤山春洋丸で着 來年の復活祭用

イヤでも必要な日本産ゆり根。澤山春洋丸で着。來年の復活祭用。ゆり根は、日本産のものでも、必要と見られる。澤山春洋丸で着。來年の復活祭用。

新市民 布哇生丸

新市民 布哇生丸。青年八名。新市民として布哇生丸が選出された。青年八名。

頓智 出陣次官

頓智 出陣次官。ガイヤ博士の頓智。出陣次官として出陣した。

正月の劇場

正月の劇場。カフオニア、カフオニアの正月の劇場。カフオニアの正月の劇場。

珍案お酒の放送

珍案お酒の放送。月の家鏡丸。珍案お酒の放送。月の家鏡丸。



是々非々

是々非々。甘平郎の是々非々。甘平郎の是々非々。

新年宴會

新年宴會。ホーランド島。新年宴會。ホーランド島。

日本郵便

日本郵便。一月一日。日本郵便。一月一日。

新世社

新世社。日米社。新世社。日米社。

日米要求 男子 貸家 血洗入用 英語教授 牛乳配達 保母招聘 音楽教授 店員入用 自動車修繕 名師紹介 山崎野子	カイトブラクタ 物産展 納豆 貸家 貸家 貸家 貸家 貸家 貸家 貸家 貸家 貸家 貸家
---	--

カイロプラクタ
物産展
納豆
貸家
貸家
貸家
貸家
貸家
貸家
貸家
貸家
貸家

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

贈り物
赤いり豆
武田菓子店

最初は早大軍猛烈に攻め 加大軍の色を失はしむ

術は優れてゐるが體力の相違で 十二對五十で早大軍惜敗す 近來にない大籠球試合

Score table for the basketball game between Keio University and Waseda University. Columns include team names and scores.

早大側 惜敗した

加太軍は早大軍の猛烈な攻撃に耐へられず、早大軍は十二對五十で早大軍を惜敗した。

四日に火蓋を切る 早大軍對昭和軍

月桂冠は何れのチームに? 興味深い籠球戦

早大軍は、昭和軍と対戦し、四日に火蓋を切った。興味深い籠球戦となった。

新年の 大聖會

救世軍にて 洗染業組合 定期總會

救世軍による大聖會。洗染業組合の定期總會も開催された。

公立學校も邦語學園も 三日から授業開始

新學期から日本人兒童約六十名が公立學校へ入学。父兄への注意も。

仕事始め 各團體の

正月の催 澤山なブ ログラム

各團體の仕事始め。正月の催事も多岐にわたる。

柔道部 稽古初め

明後三日夜 柔道部の稽古初め。

初日 初入り丸 サイベリア丸

六日午前着 初日、初入り丸、サイベリア丸の到着。

鎮座祭 今春舉行

天理教當市に設立され 鎮座祭の主人が布教使に

天理教の鎮座祭。主人が布教使として活動中。

本紙新年號目錄

Table of contents for the New Year issue of the newspaper, listing various articles and their authors.

京山華千代の 浪花節

今夜 明後夜開演 京山華千代の浪花節。

特務艦 かもろ

明日出港 特務艦かもろの明日の出港。

日支兩軍 爭覇戰

世界選手權 日支兩軍の爭覇戰。

謹賀新年 社員一同

和申から謝状 謹賀新年の社員一同の挨拶。

旅行中に就き 年賀の禮を缺き申候

安孫子 久太郎 旅行中に就き年賀の禮を缺き申候。

本紙新年號目錄

Table of contents for the New Year issue, including a list of articles and their authors.

賀正 美濃部 弘

大石 孚 賀正の挨拶。

杉本嘉一郎

自動車出張修繕 杉本嘉一郎のサービス。

有明庵

現代 有明庵の紹介。

日本茶店

相馬茶店 日本茶店のサービス。

萬

移轉廣告 萬の移轉。

板谷元雄

移轉廣告 板谷元雄の移轉。

常盤園

時計修繕金庫開業 常盤園のサービス。

日本ホテル

贈物に電氣用品 日本ホテルのサービス。

相馬茶店

贈物に電氣用品 相馬茶店のサービス。

萬

移轉廣告 萬の移轉。

板谷元雄

移轉廣告 板谷元雄の移轉。

常盤園

時計修繕金庫開業 常盤園のサービス。

桑港興行會社

須市朝日座直營 桑港興行會社のサービス。

和樓

御諒開明の初春が近づきました 和樓のサービス。

Advertisement for Jintan (Japan's No. 1) cigarettes, featuring a product image and promotional text.

Advertisement for Mitsuba (三日月) products, including a product image and descriptive text.

Advertisement for a Japanese restaurant or shop, listing menu items and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

Advertisement for a business or service, providing details and contact information.

護新賀年

桑港の部

北佛教團本部
桑港佛教會
佐々木芳照
佐々木清海
高橋 覺惠
沼波 義貫
太田 敏夫

日本人キリスト教
青年 會
富澤 清
沼尻長十郎
木庭道雄

美以教會
津田彌二郎
會長 一同
美以青年會

日本人基督教會
泰庄 吉
教會員一同

第一レンオームド教會
幸田宗平
教會員一同

社務室に對し之の厚
き謝辭を御披露を蒙
りし御來の御助力を仰
ぐに厚く感謝

救世軍
在米日本人部

古庄 弘
腹巻中に付年賀欠
腹巻中に付年賀欠

金門學園
鈴木孝志
瀧口啓次郎
瀧口ヒサノ
北村クニ

シスター幼稚園
田島準一郎

桑港日本人
商業會議所
日本商品陳列所
渡邊 久克
田島安太郎
奥野庸太郎
長谷川 徹

寺澤 久吉
中畑 四郎
山川 聖
山川 義

市橋 倭

三井物産
株式會社
堤 汀
兒馬重太郎

原田醫院
北河醫院
十全醫院

一安博孝
市尾 初
丸岡事務所
森川福松
石澤 豊作
石澤 豊作

共同花店
奧村甚二郎
大石徳太郎
大石米太郎

井上花店
井上 琴治
井上 晋

佐藤鶴吉
原 三三郎
平岡敏之

植松忠治
植松忠治

吉田 操
永田 茂

堂本 花店
羽毛 店
田中常助
塩澤喜久哉

井上 晋
井上 晋

秀島七三郎
高尾鶴松
吉岡金太郎
小圃千浦
鷲塚 象吉
出野 靖一

別府寫真館
吉村 徳輔
杉山伊三郎
谷口 商店
齊藤 商店
田伏菊之助
森下 桂庵
松 永 茂
AB 飯屋

大石米太郎

井上花店
井上 琴治
井上 晋

植松忠治
植松忠治

土井 稔一
中原利晴
土橋 慶作
福原角太郎
松本豊松
山崎平作
土井口祐太郎

石田太造
榮正一郎

山崎 平作
土井口祐太郎
谷靴工場
三井物産
三井物産
三井物産
三井物産

三井物産
三井物産
三井物産
三井物産

三井物産
三井物産
三井物産
三井物産

三井物産
三井物産
三井物産
三井物産

井上 政夫
日光 湯
木村 武二
井上三吉
根津トコ
世良 眞一
三枝松康雄

林かつ子
謹賀新年

武田菓子店
武田徳太郎

武田菓子店
武田徳太郎

武田菓子店
武田徳太郎

武田菓子店
武田徳太郎

いろいろは
博多屋
羽衣亭
日米のしや
常磐園
お多福
宇すづみ

矢車
やつこ
萬盛庵
青柳
有明庵
菊川亭
みどり
港すし
昭和樓
ひさご
すし源

すし源

すし源

すし源

すし源

謹賀新年
常盤園
桑港サウスパーク

謹賀新年

謹賀新年

謹賀新年

謹賀新年

謹賀新年

謹賀新年

昭和三年一月元旦

活動寫眞巡業團

羅府ジャクソン街四五二

北都 齊謙遊

桑港ブッシュ街二二五A 木村 宗雄

桑港ゲリー街一六六五 桃中軒 浪右衛門

謹賀新年

一月元旦

加州ホテル

本年も相變らず御引立の程願上ます

桑港ラダナ街一七〇一

倉野 智太郎
野作 十郎

明けては御日出度う
何卒本年も相變らず御最負を願上ます

常盤園

高等御料理 桑港 うすずみ

てる子、るり子、ささ子、こごみ子

新年御日出度う
尚本年も相變らず御引立を願上ます

みどり亭

新移轉 桑港サター街一七七一
電話ウオーナツ四二二九

深雪 お 惠
静枝 一 郎

御料理

お多福

菊川亭

うすずみ

みどり

鮮魚、精肉
和洋食料雜貨一切
蒲鉾製造卸小賣

桑港魚市場

秘密病

白濁丸

補腎丸

調經丸

種子は

種子は

種子は

種子は

種子は

種子は

南加地方における
正月の催しと會合

相撲、演劇、映画、演説
撞球、盆踊り、盆舞、盆歌

サンデーゴブ
正月二日同佛青年會の演劇式

撞球大會
二月二日同佛青年會の演劇式

出帆は
二月二日同佛青年會の演劇式

青年會
二月二日同佛青年會の演劇式

大正天皇
一月廿一日の御即位二十週年

正月芝居
二月二日同佛青年會の演劇式

進拜式
二月二日同佛青年會の演劇式

蘭ホーク會の日
二月二日同佛青年會の演劇式

最終役員會決議
二月二日同佛青年會の演劇式

西本願寺の
除夜會

除夜會
二月二日同佛青年會の演劇式

歳末大會
二月二日同佛青年會の演劇式

青年團最終
月次例會

日白野球
二月二日同佛青年會の演劇式

試合
二月二日同佛青年會の演劇式

肥後屋ホテル
二月二日同佛青年會の演劇式

日米支社
二月二日同佛青年會の演劇式

南加要求團
二月二日同佛青年會の演劇式

土地
二月二日同佛青年會の演劇式

日會新役員
二月二日同佛青年會の演劇式

募集
二月二日同佛青年會の演劇式

日會新役員
二月二日同佛青年會の演劇式

募集
二月二日同佛青年會の演劇式

第一街グラーヂ
二月二日同佛青年會の演劇式

料理花月
二月二日同佛青年會の演劇式

中村事務所
二月二日同佛青年會の演劇式

勸工場
二月二日同佛青年會の演劇式

太平洋印刷所
二月二日同佛青年會の演劇式

中村事務所
二月二日同佛青年會の演劇式

藤井事務所
二月二日同佛青年會の演劇式

太陽堂
二月二日同佛青年會の演劇式

かまぼこ
二月二日同佛青年會の演劇式

切符代理店
二月二日同佛青年會の演劇式

松竹キネマ大映畫
二月二日同佛青年會の演劇式

戀しき妻
二月二日同佛青年會の演劇式

秋田遊民
二月二日同佛青年會の演劇式

富士活動常設館
二月二日同佛青年會の演劇式

高木旅館
二月二日同佛青年會の演劇式

オリンピックホテル
二月二日同佛青年會の演劇式

貯金の爲め萬一の爲め
二月二日同佛青年會の演劇式

日本支社
二月二日同佛青年會の演劇式

近藤事務所
二月二日同佛青年會の演劇式

近藤事務所
二月二日同佛青年會の演劇式

近藤事務所
二月二日同佛青年會の演劇式

喘息患者に急告
冬期無料試用

野一色氏電氣家庭治療機
薬で治る難病人は之れで解決

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

薬で治る難病人は之れで解決
野一色氏電氣家庭治療機

恭賀新年
切に皆様の御清福を祈り
尙ほ倍舊の御眷愛を乞ふ

羅府東一街二二三一
電話パンダイク〇六〇七

栽培を奨励す

行くは道路のべい
ブメントに使用するこ
コルターの栽培の奨励に使用
コルターの栽培の奨励に使用
コルターの栽培の奨励に使用

早稲田籠球團 新年の劈頭戦

一月二日午後八時半
早稲田籠球團一行十一名が
早稲田籠球團一行十一名が
早稲田籠球團一行十一名が

定期總會

東北青年會
定期總會
定期總會
定期總會

佛教會日曜校 新年大會

佛教會日曜校
新年大會
新年大會
新年大會

東福師母堂追悼會

東福師母堂追悼會
東福師母堂追悼會
東福師母堂追悼會

學園の學藝會

學園の學藝會
學園の學藝會
學園の學藝會

火を吐いて

火を吐いて
火を吐いて
火を吐いて

土州山

土州山
土州山
土州山

恭賀新年

恭賀新年
恭賀新年
恭賀新年

濱井回春堂

濱井回春堂
濱井回春堂
濱井回春堂

新イーグル藥店

新イーグル藥店
新イーグル藥店
新イーグル藥店

日の本旅館

日の本旅館
日の本旅館
日の本旅館

レタス種子

レタス種子
レタス種子
レタス種子

佐藤齒科醫

佐藤齒科醫
佐藤齒科醫
佐藤齒科醫

落井回春堂

落井回春堂
落井回春堂
落井回春堂

山陽家具店

山陽家具店
山陽家具店
山陽家具店

養老保險に加入

養老保險に加入
養老保險に加入
養老保險に加入

武田紐育代理事務所

武田紐育代理事務所
武田紐育代理事務所
武田紐育代理事務所

新藤商店

新藤商店
新藤商店
新藤商店

石井銀佐

石井銀佐
石井銀佐
石井銀佐

FACE-A-LITE

FACE-A-LITE
FACE-A-LITE
FACE-A-LITE

森本齒科院

森本齒科院
森本齒科院
森本齒科院

田中醫醫院

田中醫醫院
田中醫醫院
田中醫醫院

村上醫院

村上醫院
村上醫院
村上醫院

Y. S. D. NURSERY CO.
苗木販賣
山口友郎

Old Gold CIGARETTES
楽しく黄金の如く輝やく
一九二八年の新年を迎ふ
P. Lorillard Company

武田紐育代理事務所
養老保險に加入
森本齒科院
田中醫醫院



青眉 久米正雄作

何處へ (七) 「あら、どうして、お前さん、まだ...

初春特別大興行 當る二月二日午後六時より 金門ホールに於て... 高橋阿傳 仇し仇浪 大演習實寫

株 藤本證券會社支店 1365 Russ Building, San Francisco, Cal.

病問答 親鸞聖人法話集 親鸞聖人一休珍話集...

大坂藥店 調劑 各種西藥 機能發育器...

SK家具合資會社 ニップ胃腸藥 NIPPON DRUG CO.

肥料と中藥 北澤商會 種子 各種種子...

京華千代 御披露 日米興行會社 初興行 一月二日... 花千代 重なる 鳥邊山心中...



謹賀新年

附錄

改新年號の意味する 光輝ある平和の意

を体し日本の國際的使命に資する 駐米大使 松平恒雄

年頭之際 日米市民に與ふ

須大總長 ウィルバー

新年からの 青木道嗣

實行の年

年頭の所感

桑港總領事 井田守三

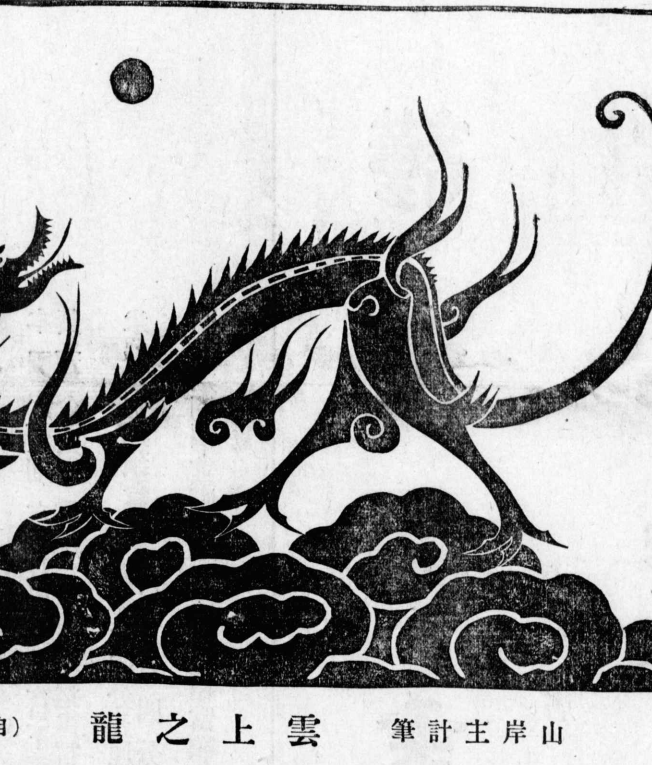
久し振に太平洋沿岸に新年を迎へる。この一年は、我々の歴史に明るい一年であり、同時に苦闘の一年でもあった。...

これは、我々の歴史に明るい一年であり、同時に苦闘の一年でもあった。...

理想

佐々木芳照

本願寺北米開教長 佐々木芳照。理想とは、単に空想的なものであるのではない。...



(刻自畫自) 龍之上雲 筆計主岸山

國を擧げて

日本が目下直道してゐる

住友銀行支店長 佐藤 鶴吉

最近の日本は、一躍として世界の版図上に立つた。日本が目下直道してゐる。...

政治の原理

政治の原理

政治の原理とは、国家の運命を決定するものである。...

道徳の原理

道徳の原理

道徳の原理とは、個人としての生活を指導するものである。...

孔子の道

孔子の道

孔子の道は、仁・義・礼・智・信の五常を基としたものである。...

深甚なる道

深甚なる道

深甚なる道とは、神聖な道徳の根本を指す。...

謹賀新年

一月元旦

日本ドライグーズ商會

社員一同

桑港ミツシヨン街四〇〇

謹賀新年

一月元旦

ホーム洗染株式會社

須川政次郎
社員一同

桑港ワシントン街九〇九—九二一
【電話】カネー 三壹九〇

謹賀新年

資本金 壹億圓
積立金及繰越金 壹億貳百六拾萬圓
預金總額 六億五百萬圓

(全額拂込済)
〔昭和二年九月現在〕

桑港サンソム街四一五—四二九

桑港支店

〔明治十九年六月創立〕

【電話】カネー 一三九五



横濱正金銀行

羅府メーソン街百番地

羅府分店

〔大正十二年二月創立〕

電話ブロードウエー 六一四四—六一四五

本國圓定期 六ヶ月以上利息日下年五分
貨預金定期 (特別扱) 十ヶ年迄書替手續省略、六ヶ月毎に利子計入 (利息年五分)
米弗貨定期預金利率 二ヶ年四分五厘 (但し期限前支拂の場合にも相當の利息差上候)
圓貨定期預金證書擔保に對し相當額米弗貨御融通申上候

謹賀新年

本店 大阪市北濱五丁目



株式會社 住友銀行

桑港支店 キヤリフォルニヤ街三一五
羅府支店 南サンビドロ街二〇〇

加州住友銀行

櫻府エル街四〇〇



中原の鹿は誰の手に
本年の大統領選挙
民主黨も共和黨も多士済々
空前の大混戦が想ひやらの

本年は共和黨の大統領選挙で共済の鹿は誰の手に... 共和黨も民主黨も... 選挙の場には共和黨も民主黨も多士済々... 空前の大混戦が想ひやらの

共和黨の方
共和黨は共和黨の人なら... 共和黨は共和黨の人なら... 共和黨は共和黨の人なら...

フリーアー氏
フリーアー氏は共和黨の... フリーアー氏は共和黨の... フリーアー氏は共和黨の...

ウオース氏
ウオース氏は共和黨の... ウオース氏は共和黨の... ウオース氏は共和黨の...

マツカズー氏
マツカズー氏は共和黨の... マツカズー氏は共和黨の... マツカズー氏は共和黨の...

リード氏
リード氏は共和黨の... リード氏は共和黨の... リード氏は共和黨の...

ドリス氏
ドリス氏は共和黨の... ドリス氏は共和黨の... ドリス氏は共和黨の...

ヒューズ氏
ヒューズ氏は共和黨の... ヒューズ氏は共和黨の... ヒューズ氏は共和黨の...

ローデン氏
ローデン氏は共和黨の... ローデン氏は共和黨の... ローデン氏は共和黨の...

民主黨の方
民主黨は民主黨の人なら... 民主黨は民主黨の人なら... 民主黨は民主黨の人なら...

スミス氏
スミス氏は民主黨の... スミス氏は民主黨の... スミス氏は民主黨の...

共和黨の方 (continued) ... 共和黨は共和黨の人なら... 共和黨は共和黨の人なら... 共和黨は共和黨の人なら...

謹賀新年 立川直三郎
謹賀新年 山手ブラザーズ
謹賀新年 切花卸商榷本商會
謹賀新年 桑港第五街一五九
謹賀新年 安グロカリフォルニア支店
謹賀新年 日本人部主任 加來藤太
謹賀新年 桑港ファイルモア街ミグリー街角
謹賀新年 小川ホテル
栗原貴之助
外 同
カリホルニア街六一一二

恭賀新年
一月元旦
桑港日本人食料品卸商組合
(ABC順)
中央貿易株式會社
波多江商會
石原商店
石光商店
陰山商會
共同消費會社
日本商會
北米貿易株式會社
太平洋貿易株式會社

正月の追憶



田島紀一郎

年の暮、友と二人、マートン... 正月の追憶... 田島紀一郎

平和の春を祝ふ

福壽草の花

内田諒庵

平和の春を祝ふ... 福壽草の花... 内田諒庵

下女を連れて... 正月の追憶... 田島紀一郎

謹賀新年

桑港の部

北米貿易株式會社 同一員社

- 東ヶ崎 菊松 東ヶ崎 潔 金澤芳太郎 岡本春三...

太平洋貿易株式會社

日本支店

- 野中 正一 長森 富太郎 松野 實樹...

- 野中 正一 長森 富太郎 松野 實樹...

恭賀新年

桑港 齒科醫師會

- 藤田 省三 藤田 雄三 檜垣 益一...

- 野中 正一 長森 富太郎 松野 實樹...

恭賀新年

桑港 旅人本館

- 中村 吉助 谷 勇 大森 彦太郎...

- 野中 正一 長森 富太郎 松野 實樹...

謹賀新年

桑港 旅人本館

- 小川 ホテル 近江屋旅館 加州館 ホテル...

- 野中 正一 長森 富太郎 松野 實樹...

去年の詩の收穫

峯澤 邁

「去年の詩の收穫」は、詩人の心路をたどる旅である。詩は、生活の断片を捉え、それを言葉で紡ぎ出す行為である。去年の詩は、静寂の中で響き、孤独の中で育ち、そして希望の中で開花した。詩人は、言葉の力で、現実を超越し、理想の世界を築き上げた。その過程には、苦しみと涙があったが、それらはすべて、詩の糧となった。今年も、この旅を続け、新たな詩の収穫を期待する。

「何處へ行く」

林田 香村

「何處へ行く」とは、旅の詩である。旅は、未知の世界への冒険であり、自己発見の道である。詩人は、旅の途中、様々な風景と人々に出会い、その感動を詩に込めた。旅は、心を開き、視野を広げるチャンスである。今年も、旅に出よう。未知の世界を探検し、新たな発見をしよう。

「炎ゆる公園」

平田 露草

「炎ゆる公園」とは、自然の美しさを詠った詩である。公園は、人々の憩いの場であり、自然の恵みを感じられる場所である。詩人は、公園の静けさと自然の美しさを、言葉で表現した。自然は、心を癒し、灵感をくれる存在である。今年も、公園へ行き、自然の恵みを感じよう。

「旅中創作」

沼田 利平

「旅中創作」とは、旅の途中に書かれた詩の集まりである。旅は、創作のチャンスである。詩人は、旅の途中、様々な情景と人々に出会い、その感動を詩に込めた。旅は、心を開放し、創作の力を引き出す場所である。今年も、旅に出よう。新たな創作のチャンスを探そう。

「影法師」

【二】

「影法師」とは、影法師の姿を詠った詩である。影法師は、静寂の中で佇む存在であり、孤独と哀愁を体現している。詩人は、影法師の姿を、言葉で表現した。影法師は、心を惹きつける存在である。今年も、影法師の姿を、言葉で表現しよう。

新年の感想

近藤 長衛

新年の感想は、希望と決意のこぼれである。新年は、新たな始まりであり、新たな挑戦のチャンスである。詩人は、新年の感想を、言葉で表現した。新年は、心を新たに、新たな挑戦をしよう。今年も、夢を叶えよう。

謹賀新年
吾妻洋食店
白川 覺 七
桑港グリー街一五三四

恭賀新年
天津 甘栗東洋軒
本店支那天津 桑港第一支店
ブキヤナン街一七〇八
電話ウエスト四二五一

謹賀新年
直輸入 デュポント商會
卸小賣商 鷺塚 条 吉
外店員一同
桑港グリー街一五〇三

謹賀新年
食料品商 海陸商會
店員一同
桑港ラグナ街一六一一

謹賀新年
財満商會
時計修繕部主任 安田 亮 吉
桑港グリー街一五一五

恭賀新年
一月元旦
汽船問屋専門旅館

桑港 防長旅館
館主 有馬 時 國
支配人 戸田 榮
支店 吉山 正 一
外 一 同
桑港サウスパーク一〇二
電話サター八五〇一

謹賀新年
鮮魚肉類、食料品、かまぼこ製造
桑港ポスト街一七四七

桑港魚市場
村井 喜一郎
岡 島 行 雄
村井 常 太 郎
村井 義 之 助
渡 邊 慎 一 吾
星 野 信 一

昭和二年一月元旦

當選懸賞論文

在米同胞の新發展策に就て (第一等當選) ペカスワイル 數 四 六

(第二等當選) 化石山人

在米同胞の新發展策に就て
(一) 第一等當選
(二) 第二等當選
(三) 第三等當選
(四) 第四等當選
(五) 第五等當選
(六) 第六等當選
(七) 第七等當選
(八) 第八等當選
(九) 第九等當選
(十) 第十等當選

第二等當選
(一) 第一等當選
(二) 第二等當選
(三) 第三等當選
(四) 第四等當選
(五) 第五等當選
(六) 第六等當選
(七) 第七等當選
(八) 第八等當選
(九) 第九等當選
(十) 第十等當選

第三等當選
(一) 第一等當選
(二) 第二等當選
(三) 第三等當選
(四) 第四等當選
(五) 第五等當選
(六) 第六等當選
(七) 第七等當選
(八) 第八等當選
(九) 第九等當選
(十) 第十等當選

第四等當選
(一) 第一等當選
(二) 第二等當選
(三) 第三等當選
(四) 第四等當選
(五) 第五等當選
(六) 第六等當選
(七) 第七等當選
(八) 第八等當選
(九) 第九等當選
(十) 第十等當選

謹賀新年

Table of names and addresses for New Year greetings, including names like 天野市助, 榎本洋染所, 藤田祐信, etc.

安田信 横山辰市
吉岡彦一 弓矢竹虎
吉田福次郎 有働常次郎

中川商品館
中川 若楠
外店員 一同

近江屋 旅館
店主 森野 庄吉
支配人 森野 宇二郎
外店員 一同

河内屋商店
辻坂 なみ
ラダ街一五四七

エス家具合會社
染谷 勝五郎
孟 孟

土屋金物商會
土屋貿易商會
土屋亥之助

和洋食料品
富士兄弟商會
柴田 彦清

和洋食料品
サンマーケット
高橋熊太郎

杵屋彌曾代
長唄彌生會
ウエブスター街一六三三

エビス洋食店
小宮山成己

坂口兄弟
自動車修理、デコリ塗替所

富士兄弟商會
柴田 彦清

和洋食料品
サンマーケット
高橋熊太郎

和洋食料品
末廣商會
西政 一

麴味噲製造所
桑港ポスト街一五三〇

森内庫太郎 若松丈吉
中村松太郎 山本初太郎

恭賀新年
日 月 年 三 和 昭
麴味噲製造所
桑港ポスト街一五三〇

謹賀新年 桑港

板谷時計店	板谷元一郎	キヤリニヤ洗濯所	フナリニヤ洗濯所	ゴルデン洗濯所	リマニヤ洗濯所	オーション洗濯所	ヒーブルス洗濯所	ハイソ洗濯所	パシフク洗濯所	スターライト洗濯所	サター洗濯所	矢部床	鈴木床	都床	村田床	萬木床	萬木三郎	るびす湯及床	山崎床及玉湯	菊の湯	みなと湯	大正湯	肥後利助	堀越清次郎	村上淺次郎	中島鎌太郎	佐伯重秋	八木勇熊	旭洗濯所	ポスト街一七三二	OKカフテリヤ	壽し、うどん、そば、御辦當並に仕出し	松の家
-------	-------	----------	----------	---------	---------	----------	----------	--------	---------	-----------	--------	-----	-----	----	-----	-----	------	--------	--------	-----	------	-----	------	-------	-------	-------	------	------	------	----------	---------	--------------------	-----

長商店

アキヤナシ街一八三六
長はな

吾妻屋商店

梶浦政次郎
あんちゃん
外店員一同

金門商店

かまぼこ、鮮魚食料品
ゲリー街一五二九

クラムス商會

和洋食料品
中井清次郎
店員一同
ポスト街一五八八

OK食料品店

實質本位の店
山崎齊

萬屋商店

和洋食料品雜貨
勝浦直太郎
店員一同

お多福

會席、高等御食事
ポスト街一五四五
電話アキヤナシ二〇一九

和洋食料品雜貨

實上商店
アキヤナシ街一七〇七

金門貸自動車

猪野哲雄
ポスト街一六五一
電話アキヤナシ二五五七

謹賀新年

一月元旦

魚喜商店

店主 酒井喜多市
谷一民
小島岩松
湯川賢太郎
吉崎忠七

和洋食料品

鮮魚等一切

恭賀新禧

藤本商會本店

店主 藤本源平

桑港ジャクソン街三三八
電話ダグラス一三二一六

藤本商會桑港支店

桑港ポスト街一六四〇
(電話)ウエスト七三三三

- 支店長 安永實造
- 大西 惣吉
 - 中島 謙喜知
 - 大野 宇一
 - 寺西 鐵造
 - 伊藤 留吉
 - 竹内 圓治
 - 藤本 貞藏
 - 山根 豪雄
 - 大村 一登
 - 末永 靜江
 - 中岡 清正
 - 麻田 耕作
 - 坂田 耕正
 - 藤田 實藏
 - 井上 金藏
 - 秋山 喜三郎
 - 渡邊 清茂
 - 尾崎 米子
 - 大谷 梅子

恭賀新年

桑港ゲリー街一五〇五 電話ウエスト八七六八

桑港興行會社

一月元旦

社長 奥定吉
専屬辯士 樋口旭
社員 須市朝日座直營
日本代理店 大阪市朝日山興行部

謹賀新年

在米第二世の結婚問題

どんな嫁婿を選ばせるか 在米諸名士意見

本社は新年號に掲載する目的に於て左の質問状を在米邦人諸名士に送り意見を發表を乞ふた處多忙中にも拘らず回答を送られた事は感謝に堪へませぬ(願不申)

御主人へ
一 貴殿の令息にどんなな嫁さんを選ばせませうか
一 貴方の令嬢にどんなお婿さんを選ばせませうか

桑原 野口能敬のためならいふ人を希望致す

私には三人の嫁子があるが、その中から一人を選んで嫁さんにするつもりだ

同 千代
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 小林 政助
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 丹正之
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 夫人
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 新井田鶴
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 内山清
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 小久
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 萩原五郎
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 東 義一
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 花子
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 青木 實次
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 佐藤 鶴吉
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 山平 謙
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 輝子
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 仲喜代一
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 高橋日出城
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 大久保 治
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 富田 勲三郎
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 八富子
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する



新しうい桑港(下町)
(松原光雄 筆)

高橋日出城
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 和歌子
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 木庭 利三
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 留久子
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 松田 午三郎
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 豊
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 政教二道の原理
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 孔子の周禮研究
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 元旦
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 民諸
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 道
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 刑律及び君權
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 威儀に就ての感慨
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 故に東の文明を生かさん
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 一進一退を説いて東の文明を要する
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 故に東の文明を生かさん
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 一進一退を説いて東の文明を要する
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 故に東の文明を生かさん
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 一進一退を説いて東の文明を要する
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 故に東の文明を生かさん
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 一進一退を説いて東の文明を要する
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

同 故に東の文明を生かさん
嫁さんを選ぶに当たっては、先づ第一に性格と教育に注意を要する

謹賀新年 港桑

房木寫真館 戶田國續

森山三郎 田中小十郎

元吉寫真館 磯江刺繡店

吉里寫真館 武田刺繡店

柳寫真館 細井刺繡店

荻澤寫真店 中島刺繡店

三角德衛 二見商店

的井宅治 星野甘堂

榎本洋服店 藤浦基

栗原節雄 松尾音吉

杉野甚松 黒河鶴吉

高橋力 石井樂三

山本素太郎 谷田部爲次郎

太田宗一 門田小鳥店

小川重雄 森小鳥店

鬼塚子之助 高井小鳥店

職員一同 職員一同

久保川廣 三好要吾

久保川良知 小泉末松

外職工一同

キヤピタル洗濯所

職員一同

桑港寫真俱樂部

田守治療院

パスト街一五八〇

パシフ井クモーター會社

パシフ井ク バタリー店

三上代理事務所

大森彦太郎

有馬保險事務所

中林小四郎

伊藤龍三郎

各種保險及土地家屋買賣周旋

エム、イー、ペーツ

イー、ジェー、オースチン

上三藏

北米病院

藤井肥料スプレー商會

桑港運送會社

富士運送會社

一般自動車修繕

平田小鳥店

日本印刷會社

酒卷、野々口事務所

日本商會

井上美術商會

謹賀新年 城戸三郎事務所

赤名法律事務所

後藤商會

池ノ上文二郎

山田四郎

岩室商會

明治商會

吉澤商店

大和商會

高澤美術商會

東洋美術商會

加藤兄弟商會

立本商會

佐藤商店

鹽田商店

日本貿易商會

松岡商店

芙蓉商會

大佛商會

貿易商

謹賀新年 曲尾兄弟商會

謹賀新年 秦美術店

謹賀新年 岩田貿易株式會社

立本商會

佐藤商店

鹽田商店

日本貿易商會

松岡商店

芙蓉商會

大佛商會

貿易商

立本商會

佐藤商店

鹽田商店

日本貿易商會

松岡商店

芙蓉商會

大佛商會

貿易商

立本商會

佐藤商店

鹽田商店

恭賀新年

一月元旦
サンノゼ市並に地方

日米支社主任
峯田 國作

新世界支社
岡垣 吉太郎

サンノゼ日本人會

サンノゼ佛教會
開教師 土原行圓

美以教會
原谷 牧師

救世軍小隊
岩永 大尉

渡邊 岩雄
三浦 德次

秋月 益夫
岸本 政一

野滿 久吉
岸本 虎雄

安田 利一
岸本 政之

星田 常吉
矢野 龜雄

据石 太平
島山 喜久治

山本 久太郎
中村 市作

山本 實夫
杉下 泰助

渡邊 繁雄
山藤 省三

大竹 一貫
丸本 平四郎

吳服反物
石川 商店

天野 醫院

日本 病院

松隈 尙雄

中原 齒科醫院

堀 産院

サンノゼ産院
木下 千代

安永運送會社
安永 龜壯

サンノゼ裁縫女學校
萩原 富子

山田 輔也

石丸 政太郎

木舟 政三

司馬 時計店

大和 湯

喜多 商店

西村 肉屋

石野 寫眞館

菅尾 常吉

早川 次良

丸山 國平

丸山 德之

毛利 正一

ジャクソン グラージ
田橋 五郎
木長 諸富

ロスゲトス洗濯所
尾本 久吉

醬油味噌、桃製造元

鶴田合資會社
社員 一同

472 Josefa St., San Jose, Calif.

アイスクリーム
パーティー

旅館部
運送部

太平館

食料品部

沖田本店

沖田支店

被服部

和洋食料品並ニ雜貨

土橋商店

土橋 清

城 花園

北澤兄弟商會

自動車附屬品、自轉車
秋月 懋

貴金屬、時計部
秋月 志郎

谷澤商店

和洋食料品並ニ雜貨

谷澤 武雄

サラ洗濯所
社員 一同

宮本 孔信

細田 雄一

河原 二郎

森本 盛登

佐市商會

東洋ソーダ水製造所
明島 作太郎

化粧品、文房具
川上 商店

峰田 事務所

松井 壽治

和洋食料品並ニ雜貨

上田 鐵夫

松原 萬造

古屋 椋吉

藤川 保

旅館部運送部
常盤魚店

北六街 府内軍藏

堀川裁縫女學院
堀川 アヤノ

謹賀新年
昭和三年
一月元旦

エデンビール
葎園 一同

小柳 國平

川浪 正道

丸林 兎一郎

藤 德次郎

村上 宇太郎

鶴本 寅吉

中川 源八

松井 長生

池本 季一

岡本 正雄

川浪 寅吉

今村 仙太郎

坂本 平馬

大原 綱次

宮村 政吉

豐福 末吉

舊年に倍して
御引立を願ひます
旭魚店

早野 文五郎

鶴川市松 日置長九郎

日本人洗濯所

赤星治左衛門 山本松夫

和洋食料品雜貨

德和商會

佐市クローブランド街

【高等支那料理】
琼燕樓

北六街

【會席料理】
たちばな

【すきやき】

【支那料理亭】
東樓

北六街

【サンマテン】
櫻井次郎

伊藤 藤吉

坂田 大八

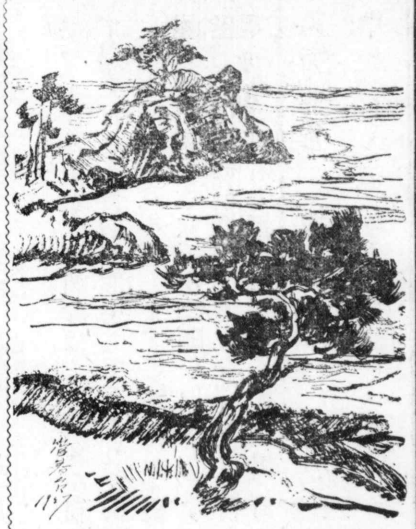
桑田 長四郎

東福松

菅尾 澤太郎

個啓一
國村 一人

謹賀新年
ギルロイ商會
店主 藤本信太郎



昭和三年とスポーツ界

日本人間では何んなスポーツが盛んであるか?

香港日本人体育倶楽部会長 山手 笹人

日本人間のスポーツは、最近北の成り立ちの...

その優勝を得たチーム、昭和三年の...

謹賀新年

王府 麥嶺 アラメダ

灣東商會

アオル、ホールセール

洗染場一同

株式會社 信濃商會

社員一同

王府寫眞師會

ハッピー寫眞館

重富寫眞館

Table of names and addresses for various businesses and organizations, including 富士屋菓子店, 都運送店, 灣東農産會社, etc.

忘中に付新年の禮を缺く

山田醫院

山田宗三郎

謹賀新年

ベーカー靴店
E. J. BAKER, 423 MAIN STREET

L. W. LAND COMPANY
Travers & Sakata
H. K. Sakata, Manager
Ichiji Motoki, Secretary
坂田久三郎
73 Walker Street, Watsonville, California
Tel. 1288, 827-J

L. FERGODO

Chrysler Motor Vehicles



\$725.00

F. O. B. Factory

價格 七百廿五弗より
參千五百九十五弗
(工渡場し値段)

635-639 Main Street,
Watsonville, Cal.
Phone Office 644 Res. 1677-W

謹賀新年

日本人諸君の御健康と御幸福を祈り本年も相變らざる御愛顧を御願ひ致します
ウィリアムス、アンド
ビーブラツク商會

WILLIAMS
AND
BIEBRACH
MAIN STREET,
OPPOSITE THE PARK
Watsonville, California

◎正月興行

新調の引幕披露興行として好評中の新渡米辯士樋口旭琅一行を聘し
當る一月三日、四日の兩夜正六時よりワツソンビル東洋ホールに於て活畫會を開催いたします何卒皆様御誘ひ合はされて御來場の程御願ひ申します

請元 北地滿壽夫
世話人 松田午三郎 井上龜一郎 橋本幾太 鳥越文吉

恭賀新禧

チャールスフォード商會はこの機會を利用して過去日本人皆様が取引して下された御厚意に對し感謝の意を表しますと同時に今後とも相變らざる御引き立てを御願ひいたします
當商會は常に皆様の御便宜を圖るべく苦心して居ります若し皆様に對し不満の點がありましたら御注意を願ひます早速改善に努力いたします終りに皆様が幸福なる新年を御迎へ下さる様祈ります

Charles Ford Co.
Watsonville, Calif.

華村日本人會 會長 伊藤晴之 副會長 二谷淺吉 元木一治 河村政平 龜谷文藏 村上熊次郎 壽村武一 華村長老教會 高山豐三 高田醫院 華村佛教會 沼田智圓 松本次良一 熊本屋旅館 池田重夫 行徳仙吉 神谷繁吉 橋本勇穂 正田常吉 美根伊勢吉 吉田角右衛門 前田仁作 榎本産院 松田虎藏 小田徳三 海野富之助 鳥越文吉 福場遠助	華村狩漁 クラブ 大野義太郎 志熊宇之助 福本槌三郎 井上龜一郎 井上二十一 井上勇 福本與之助 横山延藏 菅井政治郎 田中辰次郎 小林織太郎 土屋峯治 志熊幸太郎 川口菊藏 小錢松治 運搬業 岩廣茂生 二宮徳太 二宮成 新渡米社 水戸野琢藏 田中小次郎 橋本種市 永瀬長介 生命保險代理 松田午三郎 高橋重孝 橋本幾太 安達重吉	阿野權四郎 山本善太郎 松岡藤内 井手勘三 伊達甚三郎 田中嘉人 山本直藏 北山松之助 清時利次 小林惣一 山口正喜 前田龜之進 朝賀彦四郎 木塚徳繁 林淺吉 杉殿佐一郎 大野時郎 高次農夫一 岩見安太郎 淺田市造 村川竹一 山田久之助 山内作治郎 河合市太郎 有田百 高田善十郎 森宗惣市 渡邊由松 八木初三郎 今田貞吉	東次郎 杉山天秤 木下照治 森辰次 安川傳兵衛 保田勉吉 高田吾市 平田六藏 藤本實 竹本伊太郎 植田實人 宮本島一 中地鹿松 二宮靜男 奧繁造 北地菊松 北地滿壽夫 三谷茂 山本藤吉 吉岡石松 秋山禮助 有吉萬吉郎 岡崎平三 平原美登四 美能伊萬太郎 多田熊吉 中尾常吉 山本善太郎 平原四文字 中元良隆 末崎忠雄
---	---	--	--

ストープ類
ブラマー
エービー、ベツク商店
508 Main St., Watsonville, Calif.
Tel. 544

That Success and Happiness may attend you during 1928 is the sincere wish of
THE PAJARO VALLEY NATIONAL BANK
Watsonville, Calif.
パハローバレー
ナショナル
銀行

會席御料理
バックキヤンデー店
BUCKHART CANDY STORE

この機會に日本人の健康、新年の御挨拶を由上げ日頃御愛顧を蒙りました大禮申上げます光榮いたします
リースクス商會
Leaks
FORMERLY ALEXANDERS

クローノルデン藥舖
Krough & Norden Drug Store
マクフアラン商會
遊戯道具一切
MACFARLANE & CO.
Tires & Sporting Goods

フリーマス金物店
P. J. Fitzmaugh Hardware Co.
ニュースコムパニー
Watsonville News Co.

肉類及食料品
ケヤントン マーケット
Phone 794 174 Main St., Watsonville
奥野篤之助
横山林三郎
山本才吉
矢の平留三郎
眞鍋生造
市岡庄太郎

抽洞虎三郎
淺海佐六
横山金太郎
金本五良吉
村上鹿藏
定地俊八

櫻井博
坂田文雄
二ノ文長十
華村流吟社
同人一同
仲田豊一
若月皎
岡田象吉
和田庄藏
酒瀬川清右衛門
三角儀次郎
戸田宇藏
日米新聞社
華村支社
武田左文司
マウンテンビュー
中村寅次郎
渡邊芳松
今井隆次郎
奥卯之助
岩田傳右衛門
神崎鹿之助
山名幸月
平林球
ヒサゴ飲食店
建築請負業
西浦兄弟

バロアルト
竹内豆腐
製造所
竹内新太郎
電話二五八〇

相原尙春
金子秀雄
熊野哲吉
大門丈三郎
佐藤喜八
宇治田彦太郎
吉田徳助

森岡菓子店
藤川初五郎
高橋愛三
平島嘉三郎
平林保險事務所
杉本魚店
ハトリイ
松島床
船引三二
山口幸吉
逸見修平
古市友吉
東内千代松

同志俱樂部
部員一同

謹賀新年
マウンテンビュー
同志俱樂部
部員一同

護賀新禧

昭和二年一月元旦

サクラメント
フロリン

櫻府佛教會

清水 磯山
今西 實定
谷口 大隆
増永 信隆

ダイヤモンド
職員一同

人見兄弟

森本 鈺

中央靴店

岡賢之進

岡日吉

三浦花店

梶田徳市

中田洋服店

須賀和利

四條由平

中村金次郎

降矢甚之助

板野雅夫

三戸川禮太郎

坂本 修繕所	末本 勤	吉田 信一	津田 彦太郎	尾崎 幸太郎	尾崎 壽一	野尻 農産會社	花田 ミツ	大山 寫眞館	高橋 市之進	河府 洋食店	久保田 到	増田 永藏	光原 與八	森脇 徳市	齋藤 正勝	新井 重平	吉村 菊之丞	山平 正人	木村 圓太	山本 龜太郎	富田 登	西山 藤一	賀中 見次郎	伊達 裁縫所	吉村 徳次郎	加味 静一	大町 正男	店員 一同	ライオン 藥店	神原 茂音武
原田 靴店	阿部 兒商會	尾崎 幸太郎	尾崎 壽一	野尻 農産會社	花田 ミツ	大山 寫眞館	高橋 市之進	河府 洋食店	久保田 到	増田 永藏	光原 與八	森脇 徳市	齋藤 正勝	新井 重平	吉村 菊之丞	山平 正人	木村 圓太	山本 龜太郎	富田 登	西山 藤一	賀中 見次郎	伊達 裁縫所	吉村 徳次郎	加味 静一	大町 正男	店員 一同	ライオン 藥店	神原 茂音武		
坂本 修繕所	末本 勤	吉田 信一	津田 彦太郎	尾崎 幸太郎	尾崎 壽一	野尻 農産會社	花田 ミツ	大山 寫眞館	高橋 市之進	河府 洋食店	久保田 到	増田 永藏	光原 與八	森脇 徳市	齋藤 正勝	新井 重平	吉村 菊之丞	山平 正人	木村 圓太	山本 龜太郎	富田 登	西山 藤一	賀中 見次郎	伊達 裁縫所	吉村 徳次郎	加味 静一	大町 正男	店員 一同	ライオン 藥店	神原 茂音武

謹賀新年

小笠原 雄二 郎
安藤 貴一 郎
島中 一 夫
辻村 治 郎
河田 貞三 郎
町田 貞一 郎

恭賀新年

加州 魚店
小林 魚店
みかど 魚店
新キヤビタル 魚店
エム・エム 魚店
サクランボ 魚店
メロン 魚店

櫻府貸自動車組合

青木 樂器店
店員 一同

OK 家具商會
店員 一同

唐川 鐵次
松村 保蔵

株式會社
中山 巖

西村 爲次郎

株式會社
中山 巖

宮井 楠之助

西島 修造

府川 敬介

時計師
世羅 勝太郎

謹賀新年

いろは亭
金華樓
眞砂樓
丸勢萬
すし生勢萬
彌生丸
橋代志丸
千代丸
日食丸
浪花堂
三日月堂

櫻府飲食店組合

芳東更丸善科雲
東丸善科雲
更丸善科雲
丸善科雲
千丸善科雲
吐丸善科雲
和歌の浦
ふじの浦
エム支那料理
不知火亭
朝日食堂

謹賀新年

櫻府旅館組合

安藝旅館	蛇の目ホテル	本田旅館
備州ホテル	甲佐屋	岩國屋
千歳旅館	九州屋	岡山旅館
圓光寺	益城屋	細川旅館
福岡屋	大島屋	藝備旅館
富士館	敷島旅館	武田旅館
肥後屋	宇土屋	浪花ホテル
日の本	鹽路旅館	ちくく旅館
廣島旅館	センターホテル	艶福旅館
		熊本屋旅館

恭賀新年

櫻面都食料品商組合

安藝商會
有明商會
いなか商會
紀伊商會

山陽商會
谷本商店
井上商會
神保商店

フロリン

市尾喜一郎
蝶野基春
野田徳三郎
加藤平二郎
三芳盛太郎

秋山道春
前田夏子
鹽濱きぬ江
フロリン

仁紫藤雄
仁紫藤吉

香静海
池田貞藏
阿部仁一郎

謹賀新年

アメリカのお友達の作文

冬のお友達の作文

冬のお友達の作文
お友達の作文
お友達の作文

お母さん
お母さん
お母さん

先生の話
先生の話
先生の話

私のうち
私のうち
私のうち

平和の使
平和の使
平和の使

お人形
お人形
お人形

美しい景色
美しい景色
美しい景色

お母さん
お母さん
お母さん

先生の話
先生の話
先生の話

私のうち
私のうち
私のうち

平和の使
平和の使
平和の使

お人形
お人形
お人形

美しい景色
美しい景色
美しい景色

お母さん
お母さん
お母さん

先生の話
先生の話
先生の話

私のうち
私のうち
私のうち

平和の使
平和の使
平和の使

お人形
お人形
お人形



船神丸



日本の童謡

日本の童謡
日本の童謡
日本の童謡

お友達の作品
お友達の作品
お友達の作品

短歌
短歌
短歌

俳句
俳句
俳句

詩歌
詩歌
詩歌

謳はれたる兒童
謳はれたる兒童
謳はれたる兒童

鈴木孝志
鈴木孝志
鈴木孝志

村の馬車屋
村の馬車屋
村の馬車屋

山の大豆
山の大豆
山の大豆

私の人形
私の人形
私の人形

お母さん
お母さん
お母さん

先生の話
先生の話
先生の話

私のうち
私のうち
私のうち

平和の使
平和の使
平和の使

お人形
お人形
お人形

美しい景色
美しい景色
美しい景色

お友達の作品
お友達の作品
お友達の作品

短歌
短歌
短歌

俳句
俳句
俳句

詩歌
詩歌
詩歌

謳はれたる兒童
謳はれたる兒童
謳はれたる兒童

鈴木孝志
鈴木孝志
鈴木孝志

村の馬車屋
村の馬車屋
村の馬車屋

山の大豆
山の大豆
山の大豆

私の人形
私の人形
私の人形

お母さん
お母さん
お母さん

先生の話
先生の話
先生の話

私のうち
私のうち
私のうち

平和の使
平和の使
平和の使

お人形
お人形
お人形

美しい景色
美しい景色
美しい景色

お母さん
お母さん
お母さん

お友達の作品
お友達の作品
お友達の作品

短歌
短歌
短歌

俳句
俳句
俳句

詩歌
詩歌
詩歌

謳はれたる兒童
謳はれたる兒童
謳はれたる兒童

鈴木孝志
鈴木孝志
鈴木孝志

村の馬車屋
村の馬車屋
村の馬車屋

山の大豆
山の大豆
山の大豆

私の人形
私の人形
私の人形

お母さん
お母さん
お母さん

先生の話
先生の話
先生の話

私のうち
私のうち
私のうち

平和の使
平和の使
平和の使

お人形
お人形
お人形

美しい景色
美しい景色
美しい景色

お母さん
お母さん
お母さん

恭賀新年

フレスノ市及中加の部 (中略)

Table listing names and addresses for New Year greetings in Fresno and the Central Valley. Includes names like 大野又一, 安平産院, 荒田宇吉, etc.

謹賀新年. Advertisement for Toyoko Hotel (テリバグラーヂ) with contact info: 〇〇五壹街ノ一カ, 〇五一二話電.

謹賀新年. Advertisement for Tenmeido (天賞堂) with address: 1805 Tulare St., Fresno Calif.

謹賀新年. Advertisement for Shintoku (新徳) with address: 市佛教會, 高倉田極逸.

謹賀新年. Advertisement for Shinwa (新賀) with address: 神川同族株式會社, 神川幸益.

岡新之助. Advertisement for Ono Shin-no-suke with address: 日米新聞フレスノ支社, 龜野景治.

Table listing names and addresses for New Year greetings, continuing from the previous section. Includes names like 石井耕四郎, 生田寅吉, 白川時夫, etc.

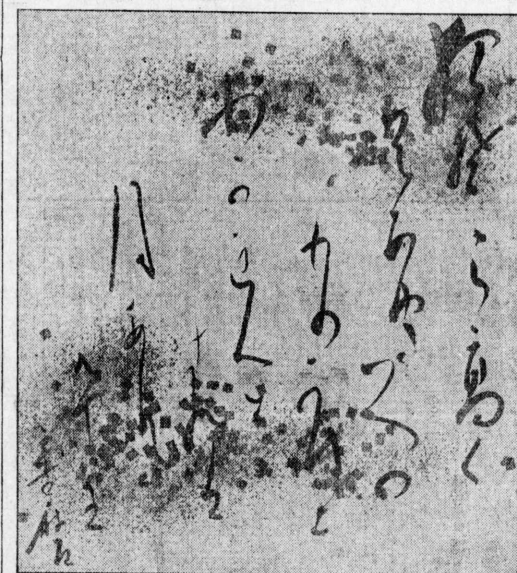


第一等當選 妻歸るまで

霧村白花
その日の朝、市井のB新聞の...

第二等當選 退屈な憂鬱
林田香村
二階住みをする山田の...

第三等當選 額づくもの
原鏡子
「いくら強いても所詮女の...



新年 短歌 編輯局選
第一等 石原正雄
煙青み子等強ければ目出度けれ...

第二等 柴田小百合
ほゝ笑みて屠蘇の酒盃持てる青子の...

第三等 夜見翠香
水仙の花はしばし見えてあり...

童謡 編輯局選
第一等 山室華雀
私のお生家...

第二等 小鳥の正月
花子
今日は正月...

第三等 月夜
今野如月
今夜の月...

お餅
久松
お餅は...

謹賀新年

中加の部

高野石助	流玉次郎	新谷吉藏	藤井茂美	小田喜二郎	太田床	仁田吾一	仁田商店	▲パレラ▲	橋村彌作	古橋商店 古橋高一 古橋敏雄	水谷商店 水谷京次郎	▲キングスバグ▲	中谷増一	佐藤儀助	中村旅館	横山利之介	吉村忠夫	江本彌次郎	藤本常義	高山太郎	三浦愛子	畑山種吉	酒井商店	▲デルレー▲	田中商店	坂本文太郎	▲ダイニユバ▲	山本寛次	昭和旅館	吉岡千代吉	橋本静二	永井仁五郎	加來源次郎	加來源次郎	秋庭半次	▲リンゼー▲	羽原末吉	津村得誠	小辻節三	能田富貴	藤田與四郎	肥和野佐太郎	立川國造	山本熊之助	岩澤正一	田川作太郎	和田徳一	弓倉エイ	片岡喜壽	和田マスヨ	品川美之吉	竹井金次郎	石坂三平	政井時計店	堀本小太郎	徳本重太郎	藤谷隆	弓倉亀三郎	丸内直吉	福田省吾	平澤俊一郎	同きく子	北京樓	▲アモナ▲	信定詰二	吉田文吾	▲レモア▲	前田嘉太郎	高橋源一	灘波庄四郎	由井善次郎	東洋旅館	坂本竹吉	旭商店 岡原要助	織田商店	木下友一	福田榮次郎	沖中新一	藤本光藏	木村倉藏	高見甚吾	上岡秋太郎	二輪惣二郎	村上捨松	谷口常一	笠賀晴義	西村賢市	鏡甚藏	仁井岡直三	宮地喜太郎	土本政市	西川三太郎	青木美一	土山米次	伊藤宗太郎	木村利之助	藤貞和市	皆本喜一	竹本静茂	下野才吉	奥野正之助	奥本谷吉	池元忠次郎	柏木平三郎	田中サメ	重富耕一	高田桂助	石川権夫	福嶋直吉	東出定夫	加藤文一	桑原龜太郎	山本吉五郎	高田謙作	潤間賢藏	泉下傳太	城音次郎	大石勉	田川藤人	尾形正	有田小二郎	上田商店	矢野秀太郎	新田旅館	河田武士	酒井金一	河野吾八	十河宇太郎
------	------	------	------	-------	-----	------	------	-------	------	----------------------	---------------	----------	------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	--------	------	-------	---------	------	------	-------	------	-------	-------	-------	------	--------	------	------	------	------	-------	--------	------	-------	------	-------	------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-----	-------	------	------	-------	------	-----	-------	------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	------	-------------	------	------	-------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	-----	-------	-------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	-------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	-----	------	-----	-------	------	-------	------	------	------	------	-------

松島坂太郎

旭商店

ソニー・ムーン・キャンプ
電話七六九

ベーカーズフィールド市エル街一三〇二
由谷商店

▲ハンホード▲
松井秋登

▲レモンコブ▲
末廣長助

▲アイバンホ▲
富山澤次郎

▲エキスタ▲
平山徳藏

▲エキスタ▲
梅谷經太郎

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店
岡原要助
電話二三〇四〇

ベーカーズフィールド市エル街一〇〇二
東洋旅館
坂本竹吉

ベーカーズフィールド市エル街一三〇二
新谷商店

ベーカーズフィールド市エル街一〇〇二
松浦植木店

ベーカーズフィールド市エル街一〇〇二
木村倉藏

ベーカーズフィールド市エル街一〇〇二
高見甚吾

ベーカーズフィールド市エル街一〇〇二
二輪惣二郎

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

ベーカーズフィールド市エル街一九二六
旭商店

年 新 合 組 商 貨 雜 人 本 日 府 羅 賀 謹

亞細亞商會 店員一同
 旭商會 店員一同
 岩城ドラツグ 店員一同
 堀兄弟商會 店員一同
 勸工場 店員一同
 木村兄弟商會 店員一同
 東京商會 店員一同
 富尾商會 店員一同
 天賞堂 店員一同

【ABC順】

謹賀新年 羅府
 井芹勝次郎
 中村萬吉
 谷本正明
 中村四郎
 藤井整
 瀧口喜造
 竹田順一
 横關廣三郎
 靱井一劍
 浦上榮二
 高山決三
 福山敬吉
 有松虎吉
 沖朝松
 小栗定吉
 塚平九平
 長松宗一
 加藤貞敏
 上山鳥城男
 岡田溪水
 林文四郎
 葛西治三郎
 山本周三郎
 黒田富士登
 山田作次
 玉川藤一
 中川松藏
 小山之
 岩水巳太郎

年 新 賀 謹

社 會 式 株 行 興 米 日

加州公認

昭和三年

一月元日

本社羅府

北サンビドロ街一三五
 電話バンダイク七六四〇

社長 安田義哲
 副社長 井谷長治

巡業部主任 三橋淺次
 事務員 荒川龜城

桑港支社

ブッシュ街二〇五二
 電話ファイルモア八四三二

主任 世良眞一
 巡業主任 平田張一

櫻府支社

日本町三三八
 主任 石丸虎市

京山華千代 外座員一同
 市川右田次 外座員一同

すま上し申ひ祝御を年新でん謹

すまし致謝深を顧愛御の素平てせ併

同一合組屋理料府羅

川梅ケ枝福
 正月亭
 一新樂
 新福富
 濱の家
 旭亭
 一富士
 かし
 竹新
 まつば
 花月
 入船
 菊川
 あけほの
 松の家
 三光樓
 龜鶴
 藤の家
 萬盛庵
 昭和樓
 天源食堂



余は何故にハワイ娘を大陸に推薦するや

北米同胞今後の活動は 青年の結婚より始まる

田原 春次

その多くは、ハワイの多岐にわたる...

一、在米華人の増加...

二、黒土星...

三、頭木星...

四、緑土星...

護賀新車

羅府の部

及び地方の部

Table with columns for names of individuals and their respective departments or regions.

恭賀新年

一月元旦

昭和小ホテル

富尾デパートメント ストーアー三階 日本人街中心地

謹賀新年

AMAGURI-TARO 甘栗太郎 logo and text for a chestnut brand.

河相喜市 富士チャップスイ

謹賀新年 須々木 榮

馬場肥料店

1441 Chahuena Ave., Hollywood Phone Granite 5799

謹賀新年

ハリウッド旅館 西田長吉 1426-28 N. Wilcox Ave., Hollywood Phone Hollywood 8731

謹賀新年

御手紙と電報を御利用下さい 米東部各州に御注文下さい

一タエスナリメア

244 E. First St., Street, Los Angeles, Calif. Phone Vandick 6157

謹奉賀新年

併せて平素の御愛顧を謝す

太平洋

日英両文の印刷物一切 製本、ゴム印、其他御注文に應じ、殊に地方より御通信による御注文に應じます

印刷所

羅府東一街二三三 電話タツカ一六〇六〇

謹奉賀新年

北浦工場 外職人一同

謹賀新年

長谷川島蔵 吉田友一

謹而昭和三年の新春を賀す

日米新聞

羅府支社

岡村喜之 武智一馬 平田露草 島田千代子 藏本原

桑港の部

日本病院

謹賀新年

中村竹之助

謹賀新年

山下汽船株式會社

桑港出張所
桑港カリフォルニア街三一號

謹賀新年

京都

(吉)

大久保平次
見島義人

謹賀新年

猪名川便宜用達社

日米間の御用は何事に不拘御用命に應じます

猪名川竹太郎

正賀
ウエストン
ステート
輸入商會
林有賀子之吉
雄雄

正賀
スター貿易商會
桑港グラント街三一

恭賀新年

桑港五街一七一
加州花卉市場

正賀
犬飼商會
犬飼久太郎

小田運送店
同山本明

恭賀新禧

帝國ホテル一同

パイン街五五一

謹賀新年

日本郵船株式會社

昭和三年正月元旦



恭賀新年

三井物産株式會社

桑港出張所

恭賀新年

三菱商事株式會社

桑港出張所

謹賀新年

併而耕作者諸君の御健在を
益々多幸ならん事を祈る

一月元旦
桑港パタリー街五一〇
加州中央耕作者組合
支配人 イー、エーチ、ハツク

謹賀新年

浅野物産株式會社

桑港マーケット街五四九
電話 カーネー 四四八二

謹賀新年

マーテンエンド

ブラウン葬儀社

桑港スカット街一五一五
(ゲリー街とポスト街間)
Phone West 10 1515 Scott Street, San Francisco.



詩 凡人學

第一等

空知晴十

凡人であるといふことの...

第二等

新春の野に歌う

それは前もつて果のやうな...

第三等

放心

この世はこれほど...

選外佳作

海はなぜ着い

海はなぜ着い...

恭賀新年

ユタ州 オクデン コンコード...

謹賀新年

舊年中は特別御引立に預り...

伴假家商店

店員一同

ユタ州オクデン市

恭賀新年 小田醫院 小田賛次

恭賀新年 岡本萬六 同正策

恭賀新年 玉置商店 高橋商店

恭賀新年 中國旅館 奥殿旅館

恭賀新年 村上甚吉 白澤助右衛門

恭賀新年 鹿島米藏 萩原繁雄

恭賀新年 高橋爲吉 三坂床

恭賀新年 飯田錦子

コンコード

岩本信二 森本信吉

中本彌五郎 帆士茂二郎

井手年太郎 松本茂

畔取房之助 坂本安平

原文太郎 原一而

原清次郎 本田力平

古田虎城

下司竹次郎

ダンピル

田守衆太郎 田守本吉

椋野源吉 阿舍利鹿之助

引土文吾 松本定一

半田清藏 平野種次郎

諸富榮

鳥山平藏 中村駒吉

平松淳一郎

竹下政幹 田住隆助

ト部宇助 瀧澤喜六

大庭留吉 遠藤喜太郎

長野久吉

小田伊助 鬼塚商店

酒井善十郎

筧本兄弟球場

藝備旅館

山本兄弟農園

サリナス旅館

至誠産院

藤野商店

山下商店

山パコ現金店

風岡勝太郎

宮本助市 菅原秋實

尾鼻林之助 尾田善次郎

松宗京次郎 牧井辰吉

渡邊連平 湯木勝一

佐藤仙太郎 嶋川秀雄

矢野藤次郎 岩本董吉

八木裁縫所 山田賢之

野口麴店 木村與二郎

明渡柳助 出口司馬大

二間瀬宇助 樋口彦七

一氏菊次郎

入江眞澄 角貞次郎

川守田英二 三浦辰次郎

増田多一郎 湊谷三郎

眞中留吉 眞中安松

宮本熊彦 渡邊茂三郎

二浦常太郎 中井仲右衛門

東ホテル 小谷源之助

尾田常太郎 兒玉節二

尾田常太郎 瀧川藤一郎

江崎藤之助 小宮柳太郎

若葉 セントラルカリフォルニア...

應 尊 新 年 雜 詠

編 輯 局 選

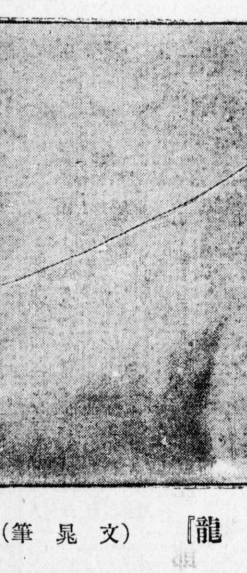
初 風 や 鳥 へ の 舟 の 發 ち 所
(天) 羅 府 三 海 風 選
(地) 羅 府 三 海 風 選
窓 掛 の 地 の 映 (初 明 り)
(人) 羅 府 久 津 間 白 津
た 雜 詠 や 一 男 一 女 右 ひ だ り
秀 逸

元 日 や そ こ 小 鳥 の 鳴 け だ
灯 の 町 に 映 け ば 心 白 雲 の 春
ま だ 初 日 だ ら ぬ 白 雲 の 春
起 きて 元 日 の 人 情 かな
星 夢 鬼

第 三 等
住 作
「ババア、金太郎に勝つて
母「坊は何かお餅を食べないの
(「坊は何かお餅を食べないの
だけのお餅を食べて年をさるのか
さかお餅を食べたよ」)



一口 嘸
編 輯 局 選
第 二 等
住 作
「お正月は来たもたわ
つらいのよ」
「お正月は来たもたわ
つらいのよ」



登 雲 龍 (筆 晁 文)

川 柳
編 輯 局 選

一 等
住 作
「お正月は来たもたわ
つらいのよ」
二 等
住 作
「お正月は来たもたわ
つらいのよ」
三 等
住 作
「お正月は来たもたわ
つらいのよ」

新 年 へ な ぶ り
編 輯 局 選
(一 等)
住 作
「お正月は来たもたわ
つらいのよ」
(二 等)
住 作
「お正月は来たもたわ
つらいのよ」
(三 等)
住 作
「お正月は来たもたわ
つらいのよ」

Table of advertisements for various businesses including 'Mitsubishi', 'Nissan', 'Yamaha', and others, with names and addresses listed in columns.



DR. CHEW DESCRIBES PROBLEM OF SECOND GENERATION CHINESE

Door of Opportunity Is Closed Here To Chinese-Americans Despite Their Qualifications

By DR. NG POON CHEW
Editor Chung Sai Yat Po

In the early days, the young Chinese born in this "Land of the brave, the home of the free" were brought up intellectually, spiritually and traditionally, essentially Chinese in no way different from their fathers for ages gone by. Much attention was given to see that these sons of the yellow race born outside of the confines of the Celestial Empire be properly instructed in the teachings of the ancient kings and sages that made China famous for polish, culture and keen intellectual attainment in the time when Europe was wrapped in thick mist of ignorance and barbarism. So heads of families, and there were very few in those early days, tried their very best to send their sons back to the old country for education that they might be prepared to take up their life work in the foot steps of their fathers; to receive religious training that they might perpetuate the all important ancestral worship in the family circle. In another word, those born in foreign soil, they might live the life of the Chinese. Even the daughters were returned, if possible, to receive similar training to fit them for duties of wives and mothers according to the iron-clad rules of ancient etiquette and propriety for which the Chinese of the old school were famous.

In those early days, the intention of the Chinese people in this country, was to linger here only temporary, as temporary as they could possibly make it. There were many reasons why they entertained such notion, and the strongest one was the treatment accorded them by the Americans. The American people in almost every way made the Chinese feel that they were strangers and aliens and that they were not wanted. Under such treatment, they could not feel at home, and all they could do was to look forward to the day when they could return home with their families to the tribal village of their fathers, where they could spend the rest of their days in more congenial atmosphere and where their sons could take up the task of life after them.

Under such circumstances, the problems of the American born Chinese were few and simple. Their problems were identical the same as those of their fathers, for the conditions that confronted them were the same as those that confronted their fathers. To them these conditions were not complicated. They were trained and brought up and prepared to tackle them without much misgivings. When they returned to China from California, "the Golden Hills of the West", they were fitted nicely into Chinese environment and society, and in no way differed from the four hundred millions of their fellows who had never been outside of the home land.

Times have changed radically during the last decade or two, and so the problems of the young American Chinese have also changed radically, so much so that there is very little similarity between the problems of today and those of the past. This condition of affairs was brought about by American education which has been well absorbed by the younger generation of the Chinese Americans, who have almost entirely forsaken the ideas and ideals of their fathers. In education, spirit and temperament they are more American than Chinese, and it seems that the only thing Chinese about them is their complexion. In all other ways they are just as American, and in some ways, they are more so than, the second generation of other foreign born parentage. Yet they are looked upon as mere Chinese by the American people and by some of them even as aliens and not part and parcel of the great American commonwealth.

Under such conditions, the American born Chinese are struggling against great odds for their advancement and betterment. Their field of activities is very limited, and the problem of life is a real and stern problem with them. Whether this problem will ever be solved is also a real and difficult question to answer.

These Chinese young people to-day have only American education and have acquired the spirit, aspiration and taste of the people of the land, and are out of harmony with the old Chinese society. By their lack of knowledge of Chinese literature, history and tradition, they are not fitted for Chinese circles in commercial enterprise or otherwise. They will not go to China to take up life's work even if they could hold their own in that ancient land in competition with the natives of China. They are accustomed to the conveniences of modern life here and even they have tasted the luxuries which are so dear to the cravings of the youth of to-day, that they have small, very small, inclination to proceed to the land of their fore-fathers to take up the struggle of life there. Yet their future here, where

(Continued on Page 3)

HAWAIIAN WRITER DEFENDS JAPANESE LANGUAGE SCHOOLS

Moral Coersion To Ban Schools Deplored

By TED KURASHIGE

Hawaii attempted to follow the post war patriotism of Iowa, Nebraska, Ohio and Oregon, and passed the Foreign Language School Law in 1920. Since then the schools have revised their curricula to meet the demands of the critical American public opinion. Text books have been written to inculcate in the pupils the ideals of American institutions.

The Japanese schools, which were vitally affected and presumably were the ones aimed at by the local legislature, appealed to the courts for relief. The United States District Court for Hawaii granted a temporary injunction forbidding the Territory from enforcing the law. Not meeting with any success in the Ninth Circuit Court of Appeals, the Territory appealed to the Supreme Court which held the law unconstitutional. In other words the Supreme Court followed the precedents set in the Iowa, Nebraska and Oregon cases wherein similar laws were held invalid.

Since then moral coercion is being brought to bear upon the citizens of Japanese ancestry to have these schools abolished. This moral coercion is made in the name of Americanism, whatever that may mean. Their failure to do so is charged as an act of disloyalty to the United States amounting to a lukewarm Americanism!

They have not instigated the litigation and were indifferent as to the outcome. Therefore it would be unfair, at this time, to disparage them after the highest court in the country has declared that the foreign language schools in Hawaii or in the mainland have a right to exist.

There is an immediate and more necessitous reason than a chauvinistic appeal to blind Americanism why these schools should be allowed to function for the benefit of the citizens of Japanese parentage. In Hawaii the predominant Japanese population demands the need for the Japanese language—at least for a decade or two.

Economic pressure and racial discrimination are beginning to be felt even in these tourist-culturing islands often self-styled as the "Paradise of the Pacific." Some of the Japanese youths are turning their eyes towards Japan, hoping to seek opportunities which are limited and denied to them in Hawaii. To them a knowledge and understanding of the Japanese language is important because they must compete against the youths educated in Japan.

Even in Hawaii an ability to use the language is an economic and commercial necessity. The American firms that do any appreciable amount of business with the Japanese employ the Japanese youths who can speak both the English and the Japanese languages.

"SERVICE AT ALL COSTS"
On the other hand there are firms that employ the Japanese because others cannot deliver the goods. These firms are after the services rather than to cater to the "racial purity" sentimental slush which is the justification of many firms for employing the whites. If the "service at all costs" idea is adhered to there might not be an absolute necessity for the Japanese language schools.

Insofar as the hiring and firing are concerned, an employee's citizenship or his loyalty to the United States is not considered. For example, in Hawaii, the Scotchmen play an important role in the economic life. Some of them have amassed a goodly fortune yet have no desire or intention to become American citizens. They rather remain Scotchmen so long as the economic advantages are not affected by their allegiance.

A famous general once stated that an army moves on its stomach. This means that they must

Home From Europe



A Street Scene in Paris
By Kazuo Matsubara

SECOND-GENERATION ARTIST TO EXHIBIT WORK IN S. F.

Mr. Kazuo Matsubara, who penned the above sketch of a street scene in Paris for the Japanese American News, is a member of the second-generation Japanese. He has returned from Paris to exhibit some of his work before the artistic public of his home town of San Francisco.

Matsubara laid the foundation of his artistic career at the local California School of Fine, which is one of the finest art institutions on the Coast. He conducted intensive work there for thirteen years, from 1912 to 1925, after which he went to Paris for further study. While in that artistic center of Europe he became a pupil of Simon, a Parisian master of considerable reputation.

Two events of importance occurred while he was in Europe. First, he won the coveted Diploma of Honor at the Bordeaux International Exposition; and second, a collection of his etchings were selected for exhibition at the British Museum in London.

Matsubara is a young man of great modesty and an artist of considerable versatility. He is equally at ease at etching as he is at charcoal or oil color, although his greatest works have been rendered on the canvas. He is a member of the Chicago Society of Etching. He is planning to exhibit his works before the Japanese public of San Francisco probably about the middle of this month, followed by exhibitions before the American public.

JAPANESE YOUTHS HAVE QUALITIES FOR SUCCESS

We Want Them To "Make Good" In Order To Prepare Way For Those Who Are To Come

By DR. RAY LYMAN WILBUR
President of Stanford University

Those of us who are watching the development of our Japanese citizens here on the Pacific Coast have become more and more keenly interested in the rising second generation. We want to see them fit into our civilization without difficulty, and our hope is that they will become happy and contented citizens. Like all young men and women they face the necessity of finding a place for themselves and of working out a program of life. We see much of failure on the part of our American youth, no matter what origin they may have had; but we also see much of success. In general our experience with the Japanese is that they have the intellectual, physical and moral qualities that make for success.

It is most important for those who are maturing at the present time "to make good", as we say in America, in order to prepare the way for those who are to come. Since certain inherent differences make Japanese men and women more conspicuous it is all the more important for them to succeed. We want to see our Japanese boys and girls develop into men and women who are helping to do the world's work in a dignified, effective and wholesome manner. We have confidence that time will bring about this result.

They have food before they can be called upon to become patriotic. Likewise it is well and good to remind the Japanese citizens to become 100 percent Americans and forsake the Japanese language schools. But if their docile loyalty does not add to their common weal or enhance their social and economic status, why should they jeopardize their ability to earn a living by denying themselves the privilege of learning the Japanese language?

EMPRESS OF JAPAN IS EXCEPTIONALLY TALENTED WOMAN

Member of One Of Proudest Noble Families

By KIMPEI SHEBA

The blood of the proudest and most powerful of the great noble families of Japan flows in the veins of Her Imperial Majesty the Empress Nagako of Japan who, with His Imperial Majesty the Emperor Hirohito, will ascend the Throne of the Empire on November 10 this year at the Imperial Coronation ceremony to be held in Kyoto.

Though born of the Blood, Her Imperial Majesty, who until the death of the late Emperor Taisho, was the widely admired and greatly beloved Crown Princess Nagako, was reared amidst comparatively humble home surroundings and taught all the arts of a house-wife by a mother who is looked upon as a model woman of Japan. She is an exceptionally gifted, true daughter of the Island Empire, whose natural gifts have been trained and developed in every way—intellectual, artistic and practical.

When Princess Nagako Kuni was selected to be the consort of the future ruler of the Land of the Rising Sun, however, there were great difficulties in the way of the successful union of this modest Princess to the democratic heir to the Throne which would have required more than human power to be removed.

Her Imperial Majesty is an artist of more than average ability; she is an accomplished musician in both Oriental and Occidental music; in such purely Japanese accomplishments as flower arrangement, tea serving and the etiquette of the drawing room, she has won high honors; in Chinese classics, in French, in ancient and modern literature and poetry she has distinguished herself as a scholar; she can perform upon the "koto" and the piano; she can play a fast game of tennis or cook a family meal. She has beauty of face and form, with a noble character which guides her in every action.

The country at large had known very little about Princess Nagako until a few years ago, save that she was a bright and adorable girl. Today the nation knows that she is all that could be desired of the consort of the ruler of the Empire. Quite as democratic as her Imperial husband and with progressive thoughts, Her Imperial Majesty mixes with society and delights in the social life. Unlike her predecessors, she is not following but is leading the feminine world, cognizant of the remarkable changes that are taking place in the position of the women of the Empire.

One of her first acts since succeeding to the title of Empress has been, it is said, to command that the furnishings as well as the daily mode of living in the Palace at Akasaka be changed from semi-European and semi-Japanese, entirely to European, that the added expense of maintaining two vastly different modes of living be disposed with.

HER MAJESTY BORN 1903

Her Imperial Majesty was born on March 6, 1903, at a time when her father, serving in the Imperial Army with the rank of Major, was absent from the country on duty. At that time the home of Prince and Princess Kuni was at Torizaka, Azabu, Tokyo, and the residence was a humble one, small and hardly to be distinguished as the home of one branch of the Imperial Family. At the age of seven years Princess Nagako graduated from her kindergarten classes and entered the Peersess Primary School, to which, daily, she went by jirikucha, interested in her school work and equally interested in the daily life of the people as observed by her during her trips to and from her home to her class-rooms.

Later, when she had reached the age of nine and could dispense with her jirikucha, daily, rain or shine, she walked to school with an attendant. Thus the Princess Nagako advanced from childhood to girlhood, and at the age of sixteen had become a student in

(Continued on Page 3)

DR. SMITH GIVES VIEW ON MISSION OF SECOND GENERATION JAPANESE

Japanese Americans Should Stress Need of Filial Piety In Interpreting East To West

By DR. FRANK HERRON SMITH
Superintendent of the Pacific Japanese Mission
Methodist Episcopal Church

FATE OR MISSION?

In these two words we have the heart of the Orient and of the Occident, the calm resignation of the East and the pushing impatience of the West. Is man at the mercy of the powers that be—or is he the master of his destiny? We are here thinking of the readers of this page, most of whom have the blood and ancestry of the Orient with the birth, education and environment of the West. Will you mix fate and mission, or will you choose one or the other?

In a recent address Chester Rowell traced the history of humanity showing how mankind started from a common center and how today Japan and California face each other across the Pacific, but with 25,000 years of experience separating them. His conclusion is a quote of Kipling's well known dictum that "East is East and West is West" but I venture to say that this pronouncement is not true today.

We speak of a World War and we consider internationalism one of the outstanding characteristics of our age. The radio, the wireless and the airplane are commonplace of our existence. The world, according to Dr. Gray, has shrunk 109 times in the past 80 years. We venture to prophesy that it will shrink another 100 times in the next quarter of a century. "One man has compared our condition today to the great U. C. campus near which I live. During class time the students are confined to the class-rooms which are widely separated on the spacious campus. But at lunch hour all are dismissed and the walks and lawns swarm with the youths and maidens. So in the history and development of the world, the classes are out and the races and peoples are inter-mingled as never before, with only Christmas as a real world holiday."

During class time the students are confined to the class-rooms which are widely separated on the spacious campus. But at lunch hour all are dismissed and the walks and lawns swarm with the youths and maidens. So in the history and development of the world, the classes are out and the races and peoples are inter-mingled as never before, with only Christmas as a real world holiday. We are sometimes discouraged at the lack of unity and progress in the world but it is not something that the Christmas expectancy, the Christmas joy, the Christmas music and the Christmas spirit are more widely experienced this year than ever before?

What does this mean for the young people of California who look back to Japan as the land of their fore-fathers? Are they spending this Christmas here at the whim of some cruel fate? Some have said that the Japanese came in the first place to America because of the avarice of those seeking cheap labor on this side, and the dissatisfaction caused by poverty and overcrowding on the other side of the ocean. These were factors, yet back of this movement of population is the Good Father of us all and I believe that it was his providence which guided Japanese to America as surely as it guided the Pilgrims of an earlier day, and that in his plan for the welding of the world into one harmonious whole, the children of these pilgrims from the Orient have a great part to play. We, the people of the world, are not mere puppets, moved at will by some unseen hand. We are children, with wills of our own, but usually succeeding best as we profit by the leadership and love of our elders.

So at Christmas time it is not of "unmei", resistless, remorseless fate or destiny of which I write, but "shimei" a mission, a life that is sent. And what is this mission on which you are sent to this western world?

Mr. Taketomi, our former Consul-General, told me last year that he estimated the number of the members of the second generation at 46,000, with an increase of 5,000 a year. The average number of children per family was given as 2.89 last year. It is probable that the total number of the group of which we are thinking today will finally be about 75,000 or 80,000 souls, of whom 70% will be in the state of California. As compared with the Irish, Italians, Jews or Mexicans, they are few in number. Few of the second generation will marry outside their own group for two reasons. There is still a certain amount of prejudice against them, but chiefly because they themselves choose their own kind in preference either to Japanese born Japanese or white Americans. Speaking broadly, the mixture of blood would probably strengthen their foster land. The strongest nations in both the East and the West are those with the greatest mixture of blood. I refer to Japan and England. At present the group is in school. Those who have graduated and are out in the world are but a handful, a few hundred perhaps; 12,000 are students in high schools, colleges and universities in California alone.

So the first mission of the second generation is that of education.

(Continued on Page 3)

